

**インバウンド対応をさらに強化！
南海本線・空港線・加太線・高野線の28駅および
特急ラピートにおいて
携帯通訳機「POCKETALK®W」を導入します**

南海電鉄（社長：遠北 光彦）では、中期経営計画「共創136計画」で、基本方針として「インバウンド旅客をはじめとする交流人口の拡大」を掲げ、各種施策を実施しています。このたび、2019年10月1日（火）から、南海本線・空港線・加太線・高野線の28駅および特急ラピートの車掌に、携帯通訳機「POCKETALK®（ポケットーク）W」を導入します。

また当社では、かねてからタブレットを用いた列車内での多言語放送や、QRコードとWEBサイトが連動したお客さま案内ツール「NANKAI TRAVEL GUIDE」の導入など、訪日外国人のお客さまに対する案内サービスの向上に努めてきました。新たに携帯通訳機を導入することで、訪日外国人のお客さまへの多言語サービスの充実化、駅窓口でのスムーズなご案内を図ります。

詳細は別紙のとおりです。



駅・サービスカウンターでの使用イメージ

携帯通訳機「POCKETALK®（ポケットーク）W」の導入について

1. 概要

駅窓口やサービスカウンター、ホームの係員が携帯し、訪日外国人のお客さまをご案内する際に使用します。通訳機を通じて対話形式でご案内を行うことが可能となります。

2. 導入機器

(1) 名称 POCKETALK®（ポケットーク）W

(2) 特徴・機能

74言語に対応した小型・軽量で携帯性に優れた通訳機です。双方の音声を指定した言語で自動的に翻訳し、音声で出力します。

※一部の言語はテキスト表示のみです。

3. 導入日

2019年10月1日（火）から導入を開始します

4. 導入箇所・台数

(1) 南海本線、空港線、加太線（15駅29台）

難波駅、新今宮駅、天下茶屋駅、堺駅、羽衣駅、泉大津駅、岸和田駅、貝塚駅、泉佐野駅、りんくうタウン駅、関西空港駅、尾崎駅、みさき公園駅、和歌山市駅、加太駅

(2) 高野線（12駅13台） ※鋼索線を含む

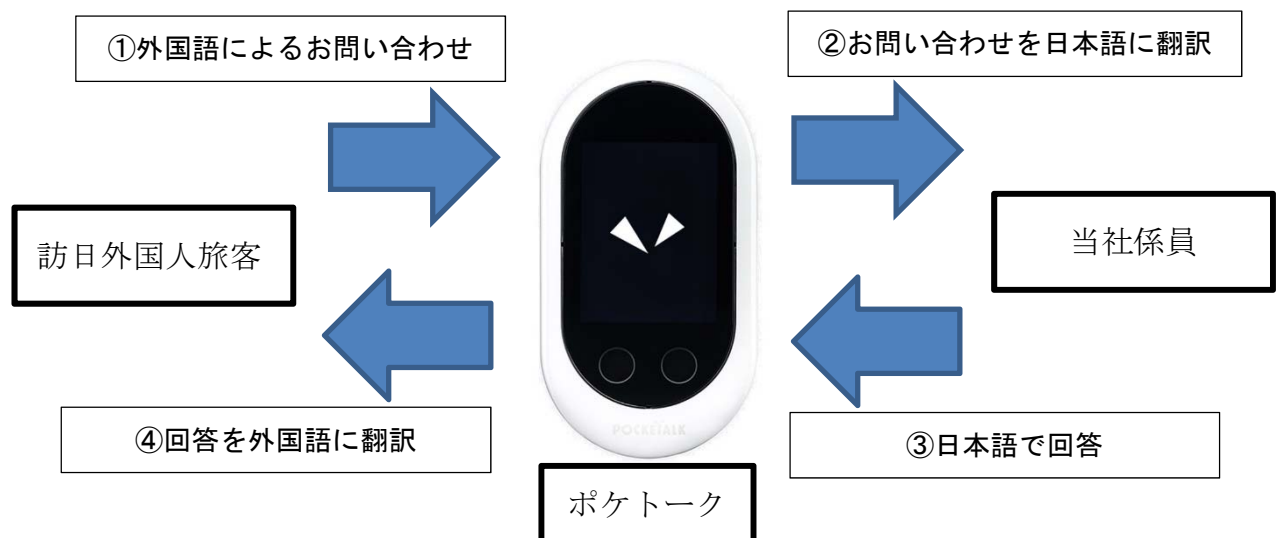
汐見橋駅、住吉東駅、堺東駅、三国ヶ丘駅、中百舌鳥駅、北野田駅、金剛駅、河内長野駅、林間田園都市駅、橋本駅、高野下駅、高野山駅

(3) 特急ラピート車内

乗務する車掌が携帯（8台）

※設置箇所は今後の運用によって変更する場合があります。

5. 使用の流れ



以上